

第69回車座集会（環境局）結果概要

1 開催概要 日時 令和6年11月10日（日） 11:00～13:00
場所 川崎市立高津高等学校

(1) テーマ等

ポイ捨てのない、きれいなまちづくりに向けて

地域やボランティア団体、事業者、学生の皆様と市長が意見交換を行いました。

- ◆開催趣旨、進め方の説明
- ◆本日の美化活動の感想と気づいた課題
- ◆ワークショップ「ポイ捨てのないまちに向けたアイデア」
- ◆意見交換「ポイ捨てのないまちに向けたアイデア」

(2) 参加者、傍聴者

計35名（参加者26名、傍聴者9名）

2 アンケート結果

2ページ以降参照

3 意見交換の概要等

6ページ以降参照

第69回車座集会（環境局）アンケート集計結果

※回答数：25件 回答率：71%
(参加者 21/26人 傍聴者4/9人)

●今回の実施内容について

問1 本日の進行や時間配分はいかがでしたか。

(参加者)

よい	よくない	どちらとも いえない	無回答
18	1	1	1

(傍聴者)

よい	よくない	どちらとも いえない	無回答
4	0	0	0

問2 本日参加した感想をお聞かせください。

(参加者)

有意義であった	有意義では なかった	どちらとも いえない
19	0	2

(傍聴者)

有意義であった	有意義では なかった	どちらとも いえない
4	0	0

問3 本日の車座集会で心に残った発言、意見交換を通じて得た新たな気づき、皆さん自身や参加者間の連携で取り組んでみたい内容などがありましたら、御記入ください。

- (参加者) ✓たくさんの方々、学生さん達と交流できて大変有意義でした。
- ✓小学生の時から環境問題に興味をもち、活動している方のお話を聞き、大変刺激をうけました。
 - ✓いろいろな年齢層の方に、ごみ拾いに参加していただきたいと思いました。
 - ✓夜にごみが多いという発言が印象に残っています。
 - ✓環境教育が非常に効果をあげており、かつ成果を出していると感じました。(=若者が優秀！)
 - ✓子どもが環境やごみ拾いに興味を持っていることを知れてびっくりしたし、がんばろうと思いました。
 - ✓意見交換を通じて、子どもの気づきや考えは大人でははかりしれないなと強く思いました。大人を巻き込むために子どもの力が必要であると感じました。
 - ✓根本的解決の難しさを改めて感じました。
 - ✓ごみ箱にアートを取り入れるアイデアがとても印象に残っています。地域の子どもから企業の大人までが参加する幅広いつながりのごみ拾い、飛び入り参加ができるとより巻き込めると思います。
 - ✓アートとゴミ捨て(捨てたくなる⇔捨てたくなくなる)両面に対応可
 - ✓ごみ箱を投票箱にする
 - ✓企業とコラボした掃除
 - ✓JTBさんが交流創造事業と自社のことをご説明されたことが印象に残っています。旅行事業に留まらず、事業内容を幅広い範囲でとらえることで事業の発展や社会からの評価につながると学びました。

問3 本日の車座集会で心に残った発言、傍聴を通じて得た新たな気づき、皆さん自身や参加者間の連携で取り組んでみたい内容などがありましたら、御記入ください。

- (傍聴者)
- ✓同じ川崎市の中でも麻生区と高津区、中原区ではごみの種類が違うというところに驚きました。
 - ✓意識の高さを感じました
 - ✓この様な活動が積極的に行われていることを知り感心しました

問4 本日意見交換した内容以外で、美化活動をしている団体や取組について御存知のことや解決の糸口になる情報などがありましたら、御記入ください。

- (参加者)
- ✓ごみ箱等を増やす
 - ✓環境教育（小・中）
 - ✓実証実験ですが、ごみ集積所に既に置かれている空き瓶の青い箱を活用できないでしょうか。もう現時点で街中のごみ箱と化している場所が多々あり、使えると思います。あわせて、集積所にトングを置いておけば、それを使って気になったごみをササッと拾えるのでは？
 - ✓川崎市内のボランティア団体同士のつながりがあるため、そうした所が活動のきっかけになるかもしれないと感じました。
 - ✓グリーンバード武蔵小杉
 - ✓若者団体カワリープアクト

問5 車座集会で取り上げてほしいテーマや御意見など

(参加者)

- ✓ 孤独、孤立の問題
- ✓ 川崎が治安が悪いと言われないようにするには
- ✓ ごみ拾いやごみの活動に加えて、人のつながりを生むイベント考案など

(傍聴者)

- ✓ かわさき緑化フェアの振り返り
→未来へ何を残し、伝えていくのか

車座集会の成果

- ・ ポイ捨てをなくすために、普段さまざまな活動をしている人達が交流し、意見交換をすることができた

※車座集会実施後も、イベントLINEで交流継続

※(参考)第一部「ごみ拾い・交流」のアンケート(参加者数118人)

【今回のイベントはいかがでしたか】

よかった 72人 よくなかった0人 どちらともいえない 1人

【主な意見】

楽しくごみ拾いでき、地域の方と交流もできて有意義だった
つながりが生まれる場だった
ポイ捨てについて考える機会になった

- ・ 行政のめざす姿や取組、課題(ごみ箱の設置等)を率直に伝え、共有することができた
- ・ 課題を踏まえた実践しやすい手法(地域や企業によるイベント参加やごみ箱の管理等)についても提案いただけた
- ・ 2回目の清掃イベントに関する具体的なアイデア(時間帯や参加方法等)をいただけた



主な意見

▶ 本日の美化活動の課題と気づいた感想

- ・ 楽しくコミュニケーションをとりながら、笑顔溢れる活動だったことがよかった。
- ・ 飲食店等でも清掃していて、ごみは減ってきている。社会貢献活動に参加する人も増えてきた。
- ・ なぜそこに、こんなごみが？と考えながら拾うことができた。
- ・ 自分が拾ったごみを誰かの袋に入れて交流がうまれたり、子ども達と話したりすることで、孤立・孤独を解決する手段になると感じた。
- ・ ごみ拾いは人とつながれる場になる。
- ・ 川崎がごみを捨ててはいけないうちになるとよい。
- ・ 線路の中のように、手も届かないところにもごみがある。
- ・ 子どもが拾うことで感化される大人もいて、子どもだからできることもあると実感した。



主な意見

➤ワークショップ「ポイ捨てのないきれいなまちに向けたアイデア」

Aグループ

- ・ たばこや空き缶が多く、ごみがある場所にごみが集まる光景が見られた。
- ・ ごみ貯金箱、自動販売機のようなもの、捨ててる人の動画をスクリーンに映す等のアイデアがあった。
- ・ 入れたくなるごみ箱（バスケットのゴール、動物が口を開けている等）があれば映える。
- ・ 大きいものにすれば人目について、ごみが減るのでは。



Bグループ

- ・ 地域ぐるみで捨てる行為を減らせる方法を考えた。
- ・ 罰則が知られていない。叱る大人もいない。
- ・ 子どもによっても意識に差がある。
- ・ ヒートマップのようなものを作るアイデアもあった。
- ・ 寺子屋等でごみ拾いの体験をしたり、ごみから価値のあるアート作品をつくったりして経験に結び付けるとよい。



主な意見

➤ワークショップ「ポイ捨てのないきれいなまちに向けたアイデア」

Cグループ

- ・ 市民が管理するごみ箱を設置するのはどうか。
- ・ 例えば投票型のごみ箱等、アートを取り入れたごみ箱もある。
- ・ 放置自転車対策の路面標示のように、子どもがデザインしたものもよい。



Dグループ

- ・ ごみ拾い街コンをするというアイデアがあった。好きな人に誘われたらごみ拾いに行きたくなるかもしれないし、ごみを捨てる人とは付き合いたくないという意見もあった。
- ・ 他にも、投票型や、ゲーム性のあるごみ箱のアイデアもあった。
- ・ ごみ拾いイベントがあると捨てる人が減ると思う。



主な意見

➤ワークショップ「ポイ捨てのないきれいなまちに向けたアイデア」

Eグループ

- ・まずはたばこのポイ捨てをなくそうという話になった。
- ・捨てる場所がない、ポイ捨てするとこうなるという認知がされていないことが課題。
- ・かわいいごみ箱をつくる。側溝にも、海と繋がっていると言葉で書いて罪悪感を感じてもらう。
- ・TikTokを使ったり、ワークショップの機会を増やす。



主な意見

➤市長との意見交換「ポイ捨てのないきれいなまちに向けたアイデア」

【ごみ箱の設置について】

- ・片付けた人にメリットがあるとよい。
- ・ごみ箱自体がアート作品とか、市民が管理していると書かれていれば汚くしづらい。
- ・実証実験として数年置いてみたり、全国からアーティストを集めるのもよいのではないか。
- ・地域に落とし込むことが大事。学校の生徒会や町内会、若者団体など、実証実験で管理してくれる団体を募集してみてもどうか。やりたいという人はいると思う。
- ・行政だけでは難しい。民間の力を巻き込まないと解決できない。地元を盛り上げるために、やりたいという企業もいると思う。

【ポイ捨てしない人を増やす方法について】

- ・子ども達への環境学習は良い機会。やりたい人だけでなく授業で。
- ・少し先輩の学生から子ども達に伝えてもらうのもよい。
- ・川崎の文化として根付くとよい。
- ・きっかけがあれば、賛同する企業もいると思うし、市や企業の価値もあがる。

主な意見

➤市長との意見交換「ポイ捨てのないきれいなまちに向けたアイデア」

【ごみ拾いイベントについて】

- ・事前申込なく、飛び入りで参加できるとよい。
- ・立ち飲みをして捨てる人もいるので、大人をターゲットにするのもよい。
企業で働く40～50代の方など。
- ・夜捨てられたごみを朝拾っている印象がある。
夜に活動している人の目に触れるように、
夜の時間帯にごみ拾いを行えば、何か感じてもらえることがあるのではないか。
- ・子どもと大人、みんな巻き込んで取り込めるとよい。
- ・自分達の活動でも、企業との関わりがインセンティブになるのではないかと思った。もっと範囲を広げてやるのも面白い。
- ・自分達にも害があるというのが伝われば、生活の仕方も変わると思う。



今後の取組

➤ アイデアを取り入れたごみ拾いイベントの実施

- ・ 地元企業の方にも参加を呼び掛け
 - ・ 時間帯を変えて実施
 - ・ 当日参加も可能とする
- 3月に高津区溝口でアイデアを取り入れたイベントを行い、今後の啓発活動の参考とする。

➤ ポイ捨てを減らすためのごみ箱設置(実証実験)に向けた検討

- ・ 現況調査（ごみ箱を設置している都市等の管理体制や利用状況の把握など）
 - ・ 課題整理（ごみの種類、設置場所、収集体制、予算など）
 - ・ 車座集会参加者等を交えて、市民参加の仕組みや管理方法等を意見交換
- ごみ箱設置の実証実験に向けて検討を進めていく。

